

平成29年度 学校評価 教職員自己評価結果

4…達成された (4点) 3…ほぼ達成された (3点) 2…あまり達成されていない (2点) 1…達成されていない (1点)

学校経営

- 1 学校の教育目標や重点目標を意識した教育活動に職員が一体感を持って取り組むことができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
6人	6人	1人	0人	2人	3. 38点	3. 27点	3. 17点

- 2 学年・学級の経営計画等に則り、計画的に実践することができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
人	10人	1人	0人	2人	3. 08点	3. 38点	3. 38点

- 3 学校・学級の課題や方針、取組などを積極的に伝え、家庭との連携を図っている。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
2人	11人	0人	0人	2人	3. 15点	—	—

《特記事項》

○学年のみではなく、ブロックや場合によっては全体で相談や協力ができた。

- 一体感を抱かれる関係づくりや学校改善プランの推進について、「ほぼ達成された」といえるだけの結果が出せていないと感じている。より具体的な共通実践を明確にし改善サイクルの確立を図る必要がある。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- 重点目標を意識した職員の一体感ある取組について、職員の意識は高くなっているが、成果の積み上げや取組の徹底について課題を感じている。
- 家庭との連携の大切さを認識し努めているが、連携した取組、一体感ある取組の具現化に課題を感じている。

<改善案>

- 重点目標達成のための取組や評価改善の時期を明確にした年間計画をたて、短いスパンでの評価改善により、一体感ある取組の徹底を図る。
- 保護者の連携・協力が一層得られるよう、学校や各学年の重点的な取組が分かるよう周知の機会や方法を工夫し、懇談会やアンケート等により中間評価を行い、重点課題や改善の取組を共有できるようにする。

組織運営

- 1 校務の運営については、その職務や機能を十分に果たすことができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
6人	6人	0人	0人	3人	3. 50点	3. 18点	3. 42点

- 2 分掌組織の業務内容が明確になっており、分掌内の業務は適切であった。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
7人	6人	0人	0人	2人	3. 54点	3. 27点	3. 25点

- 3 諸会議・各部会等は、効果的・効率的に行なうことができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
5人	6人	2人	0人	2人	3. 23点	3. 00点	3. 58点

《特記事項》

- 会議の削減と効率化が図れてよかった。次年度も新年度会議で方向性や取組を決定し、校務部会・運営委員会を経て確認事項として提案したり、C 4 t hの有効活用を図ったりして、会議の短縮・削減を目指したい。
- 限られた時間の中で、やるべきことをしっかりやっていくためには、さらに計画的に効率よく実施していかなければなりません。
- ・次年度も学年の業務と校務の業務のバランスを考えた組織づくりが図られたら良いです。
- ・学力、体力向上などの学校課題の解決に向け、各部が前年度踏襲ではなく、少しでも改善を図って提案し取組を進めることが重要である。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・学校課題等の解決に向けて組織的な学校運営が図られているとの意識している職員が多いが、学級事務や授業準備など、勤務時間内では終わらない現実もあり、校務の効率化・精選、時間の確保は依然として課題である。

<改善案>

- ・職員会議や学級経営交流会など、学力・体力向上など、一体感ある指導が肝要な事項について、計画的に協議する場を設けていく。
- ・職員会議について、学校課題に向けた取組の評価・改善、新規行事及び既存行事の変更点のみ協議し、その他は文書による連絡とする。(校務用パソコンの連絡掲示板の有効活用)

教育課程の編成と実施

- 1 学習指導要領の趣旨を踏まえ、子どもの実態を反映した特色ある教育課程が編成された。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
2人	9人	2人	0人	2人	3.00点	3.00点	—

- 2 地域の素材(人材・自然、施設など)を活用し、学習の充実を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
4人	9人	0人	0人	2人	3.31点	3.18点	3.00点

《特記事項》

- 5年生は、グループホーム「のどか」と総合の学習で交流することができた。
- 移行期及び学校統合に向けた教育課程の見直し・改善を確実に進めるとともに、子供たちに明徳小で学んだことに自信と誇りをもてるようにしていきたい。
- 小規模校の特長を生かし、縦割り学級等による異学年交流を活発にすることで高学年としての自覚を高めることが大切と考える。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・小規模校の特色を生かしたり、統合に向けた教育活動を推進したりするなど、児童の実態を踏まえた教育課程の改善を一層図っていく必要がある。
- ・地域素材の活用については、図られてきているという意識が高まってきている。

<改善案>

- ・合同学習や縦割り活動、児童会活動などによる異学年交流を推進し、児童間の絆や一体感、高学年のリーダー性等を育み、愛校心や自校への誇りがもてるようにする。
- ・学校統廃合に向け、地域の人々の思いや願いに気付き、感謝の気持ちを高めたり、錦岡小学校の児童や施設に慣れ親しむ機会を創っていく。

特別支援教育

- 1 特別な支援を必要とする児童に対応した具体的な手立てを推進することができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
2人	8人	3人	0人	2人	2. 92点	3. 18点	3. 08点

- 2 校内支援委員会の機能を生かすことができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
3人	9人	1人	0人	2人	3. 15点	3. 18点	3. 42点

- 3 特別支援教育についての実践的研修をすることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
3人	8人	2人	0人	2人	3. 08点	3. 36点	2. 83点

《特記事項》

- 今年度支援員さんが配置されふたです。また、私たち職員もたくさん助けられました。
- 特別支援に関する資料をたくさん配布していただき、勉強になりました。
- （春休みの）校内支援委員会で、新担任に参加してもらったのは、引継にもなってよかったので、今年度も続けた方がよいと思います。
- 個別の指導計画を作成するまでは進んだが、困り感が強くなってきている児童、今以上の特別支援を望んでいない保護者など、難しいケースがあります。今後どう支援したり、保護者にアプローチをしていったりするかが課題と思っています。
- 職員の数が少ないので、通級指導の時間がなかなか確保できないのが悩みです。
 - ・支援を要する児童について、各担任は困っていることがあれば遠慮せずに情報発信をすることが大切で、その改善が具体的な支援へとつながる。
- 個別の指導計画の交流が実践的研修となるし、職員の共通理解も図られるのではないかな。学級経営交流や生徒指導事例研に含めてはどうか。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・全項目において昨年度を下回り、課題意識が高まっている。困り感を有する児童への対応や指導の在り方について、担任だけでは不十分であり、人的支援や組織的な対応を求める声が大きくなっている。

<改善案>

- ・個別の指導計画について職員間で交流・協議する場を設定し、児童理解を深めたり、組織的な指導体制の確立を図ったりする。
- ・個に応じた指導を充実させるための人材の確保や授業形態の工夫に努め、複数の教員による指導時間を増やすようにする。

学習指導

- 1 学習規律やノート指導の徹底を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
1人	7人	5人	0人	2人	2. 69点	—	—

- 2 個に応じた指導に努め、学力の向上を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
2人	11人	0人	0人	2人	3. 15点	3. 00点	3. 00点

- 3 少人数指導を積極的に活用することができた。（2年生以上）

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
5人	7人	0人	0人	3人	3. 42点	3. 36点	3. 36点

- 4 朝学習、放課後学習、長期休業中の補充学習、学力テスト問題・チャレンジテストの活用等に取り組むことができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
4人	8人	1人	0人	2人	3. 23点	3. 64	3. 42点

《特記事項》

- 学習規律など、まだ定着できていないように思われます。年間を通して粘り強く指導してることが大切だと思います。
- 朝学習や補充学習のさらなる工夫が必要です。
- どの学年も取組を行っているが、その徹底には差があったのではないかと。ノート指導については算数以外の教科についても交流（子どもの実際のノートを見せ合うなど）して、明德小としての型を確認した方がよい。
- ・45分間の授業時間を無駄にせず、充実させることが学力向上の第一歩。
- 朝学習15分の有効活用を。（個別指導の取組）

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・学習規律やノート指導の徹底は学校の重点指導だったため、教職員の反省結果が強く出ている。4番の補充学習についても朝学習時間を5分伸ばして15分間にしたが、有効活用が十分図られていなかったことへの反省が反映されている。

<改善案>

- ・学習規律の徹底に向けて、生活目標と関連を図り、達成目標を立てて全校・学級で取り組み、成果が分かるような掲示を工夫する。（一体感ある取組）
- ・朝学習・朝読書の時間15分間確保のため、登校時刻8：00までの浸透を図る。
- ・5時間授業日（月・水）の放課後学習の実施を次年度も継続し、高学年の積極的な利用に向けた働き掛けや担任と連携した学習内容の改善を図る。
- ・学力向上に資する学校全体の取組（授業改善や家庭学習）を明確にし、徹底した取組を行う。また、短いスパンで取組の評価・改善を図り、保護者との連携に努める。

道徳指導

- 1 道徳の時間の授業の充実に努めることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
6人	7人	0人	0人	2人	3. 46点	3. 36点	3. 18点

- 2 外部講師や「私たちの道徳」などの活用により指導法の工夫を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
2人	11人	0人	0人	2人	3. 15点	3. 18点	3. 09点

《特記事項》

- ブロックでの研修や参観日などいつも以上に準備をして授業ができた。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・平成30年度からの教科化に向けて、校内研修において研究教科として扱い、授業研究が活発に行われ、授業力の向上が図られてきている。

<改善案>

- ・来年度も児童の心に響く35時間の授業づくりに努めるとともに、保護者アンケートや道徳便り、授業公開などにより、保護者との連携を積極的に図り教育効果が高められるようにする。

特別活動

- 1 児童の発想や創意を生かした自主的な児童会活動であった。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
3人	9人	1人	0人	2人	3. 15点	2. 91点	2. 83点

- 2 話し合いや活動の過程を重視した学級活動になっていた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
1人	9人	3人	0人	2人	2. 85点	2. 82点	2. 64点

- 3 学校や地域の特性および児童の実態を生かした学校行事を創造することができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
3人	9人	1人	0人	2人	3. 15点	3. 09点	3. 25点

- 4 クラブ活動は児童の興味・関心や実態を考慮し適切な計画・運営であった。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
2人	11人	0人	0人	2人	3. 15点	3. 36点	3. 33点

《特記事項》

○アウトリーチ事業を活用し、充実した活動ができました。

●児童会活動を頑張る子どもたちの姿が見られてよかった。生活目標の取組について、もっと目立つように掲示したり、委員会で呼び掛ける活動を行うなど、児童の一体感ある取組ができるとよい。

●学級会という形で話し合い活動をあまりできなかった。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・児童会活動の活動回数の確保により、活動内容の充実が図られてきている。話し合いや活動の過程を重視した学級活動については不十分と考えている職員が多い。

<改善案>

- ・児童会活動については、児童の交流や一体感が深まる取組や活動を行い、活動の成果や頑張りが認められる掲示や評価を工夫する。
- ・学級活動については、学級の問題解決や行事に向けた取組など、発達段階に応じた話し合い活動ができるよう、意図的・計画的に指導する。
- ・その他、全校児童の一体感を高めるための縦割り活動や全校合唱の取組、運動会種目の見直しなど、積極的な改善・充実に努める。

総合的な学習の時間

- 1 地域の素材や人材の育成の有効な活用を図り、授業の充実に努めた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
3人	7人	2人	0人	3人	3. 08点	3. 18点	2. 73点

《特記事項》

○人材活用は教務が中心となってよく図られていた。

○5年生は、グループホーム「のどか」と交流し総合の授業で活用できた。

●課題把握や探求する力、表現する力を高めるための指導計画の整備が不十分である。各テーマについて学年の発達段階を踏まえた目指す子どもの姿も曖昧である。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・地域人材の活用については、今年度も積極的な利用に努めていた。年間指導計画の見直しや探求的な学習の充実を図る必要がある。

<改善案>

- ・総合的な学習の時間において身に付けさせるべき資質・能力を育むための年間指導計画及び単元計画の改善を図る。また、課題設定や課題解決などの探求的な活動を重視し、友達と協働して課題解決したり、分かりやすくまとめ・発表したりできる力を育む授業改善を図る。

生徒指導

- 1 日常生活の中で児童理解を深める工夫や配慮がなされた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
3人	10人	0人	0人	2人	3. 23	3. 20点	3. 08点

- 2 非常時における安全指導の徹底に努め、安全意識を高めることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
1人	10人	2人	0人	2人	2. 92点	3. 36点	3. 00点

- 3 全教職員による共通理解のもとに、教育相談体制を確立することができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
4人	9人	0人	0人	2人	3. 31点	3. 18点	3. 42点

- 4 問題行動やいじめの早期発見を含め、迅速かつ適切な指導を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
4人	9人	0人	0	2人	3. 31点	3. 36点	3. 33点

《特記事項》

- 避難訓練については、従来の避難訓練に加え、短時間の訓練を時間帯を変えて月に1回程度実施してはどうか。
- 校内巡視の体制は、年間を通して維持し、問題行動の未然防止を図ることが大切と思う。
- ・児童同士のトラブルやそのことによってけがをすることもあったので、安全指導を徹底することはもちろんですが、体制が手薄だったり、先生方にも余裕がないと目が届かなくなるので、先生方の忙しさが少しでも改善できるといいと思います。
- ・保護者対応などで管理職の先生たちに助けてもらいました。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・安全指導、危機管理に関する評価が下がっている。記述のとおり、児童・教職員の危機対応能力を高めるための取組、いじめや問題行動等の未然防止や早期発見を図るための組織的な取組を充実させる必要がある。

<改善案>

- ・避難訓練の実施回数、実施内容などを見直し、様々な状況において安全に避難できる・避難させられるようにする。
- ・休み時間等の校内巡回指導を年間を通して継続するなど、全職員で児童を見守り指導する体制を強化する。
- ・学習や生活規律の定着に向けて、指導の重点を明確にして校内掲示し全職員で指導の徹底を図るとともに、児童会活動など、児童の主体的な取組を促す。

健康安全指導

- 1 性に関する指導を通じて、生命の大切さに気付かせることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
3人	9人	1人	0人	2人	3. 15点	3. 36点	3. 33点

- 2 日常的に体力づくりを行い、体力向上を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
6人	5人	2人	0人	2人	3. 31点	3. 36点	3. 25点

- 3 心身の健康を保つため、自らの健康管理を行うよう働き掛けた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
2人	11人	0人	0人	2人	3. 18点	3. 25点	3. 33点

《特記事項》

- 性の指導～担任の先生方には実態に合わせて指導していただいた。児童の感想もよくわかった等の反省が多く書かれていました。
- 体力づくりの取組として今年度なわとび検定も始まり充実していた。
- 長距離走を時期を変えて2回実施してはどうか。鬼遊びは異学年交流としては継続でよいが体力向上になっているかは疑問。縄跳びの取組の充実を図ってはどうか。(走力・持久力の課題)
- 数値目標、達成率など努力が自分だけでなく、みんなに見えるようにすると意欲も高まるのではないか。(掲示や表彰の工夫)

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・どの設問も昨年度より下がっており、「性に関する指導」と「体力づくり」は評定2を付けている職員もあり、改善を要する。「3 自らの健康管理を行うよう働き掛けた」についても年間計画に沿って行っているが下降傾向であり、保健室と担任等との連携を図った指導の充実が必要である。

<改善案>

- ・性に関する指導については、道徳等との関連を踏まえて指導内容の改善を図って実施する。
- ・体力づくりについては、なわとび検定の充実や体力づくりの取組や期間の見直し、意欲を高める掲示の工夫など、全校児童が意欲的に体力づくりに取り組むよう改善を図る。
- ・健康管理の働き掛けについて、月の保健目標を明確にし、担任との連携により指導の充実を図る。目標達成にむけて意欲的を高める工夫を行う。

視聴覚・図書館・掲示教育

- 1 視聴覚機器の活用が図られ、視聴覚教育を積極的に進めることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
3人	10人	0人	0人	2人	3. 23点	3. 00点	3. 17点

- 2 計画的な掲示を行い、校内の美化と環境作りが積極的に進められた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
1人	11人	1人	0人	2人	3. 00点	3. 18点	3. 17点

《特記事項》

- 保護者にも朝の読み聞かせに参加してもらい、読書への関心を少しずつ親子でも高めてもらうことができた。
- 図書ボランティアの方の読み聞かせが、子供たちの楽しさに繋がり、潤いのある学校生活づくりの一つとなっていた。
- 親子読書の掲示が学校司書の協力のもとできて親子読書月間を盛り上げる事ができた。

- 司書の先生が来ていただけるのも良かったです。
- ボランティアさんの活動も活発でした。お便りもびっくりしました。
- 図書ボランティアの活動など、読書への関心を高める取組が大変よかった。

- 算数学習室や外国語活動室の教室整備・清掃の充実を！特別教室は使用した学年が片付けや整頓を責任もって行うことが大切。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・設問にはないが記述より、図書ボランティアの活動や学校司書の配置により学校図書館が整備され、児童の読書への関心や意欲向上に大きく貢献していた。
- ・外国語活動室や算数学習室などの特別教室の整備や整理整頓については課題があった。

<改善案>

- ・外国語活動室や算数学習室については、学習意欲の喚起や既習事項の復習に生かせる掲示など、教室環境整備を図る。
- ・教室及び教室前廊下の掲示については、学校としての取組については統一感を図っていく。また、生活目標の取組など、一人一人の児童の頑張りが見える掲示に努め、意欲喚起を図る。

研究・研修活動

- 1 研究主題をふまえ、実践に努めてきた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
5人	8人	0人	0人	2人	3. 38点	3. 27点	3. 58点

- 2 学級・学年・ブロックの研究協力体制が充実していた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
4人	9人	0人	0人	2人	3. 31点	3. 36点	3. 33点

- 3 研究会や講習会への案内・参加は、適切に実施された。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
10人	3人	0人	0人	2人	3. 77点	3. 55点	3. 42点

《特記事項》

- 全学級の授業公開が大変勉強になりました。
- 研究講座は基本的に各校1名以上の参加が求められていることから、2回の参加ノルマのほかにも参加をお願いします。
- ・研究1年次ということで手探りの中、実践することができた。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・道徳の教科化に向けて指導力向上を図るため、計画的・実践的な研修活動を行い、市内教職員にも授業公開して、道徳授業のポイントを押さえることができた。

<改善案>

- ・次年度も、子供たちが道徳的な価値に迫る授業づくりに向けて研修を深めていく。全担任が互いに授業公開し、明德小学校としての道徳授業の在り方を追求する。
- ・道徳性を養うには家庭との連携が重要なことから、参観日で道徳授業を公開し、道徳通信・道徳アンケート等により、児童の実態や授業の様子を積極的に伝えるようにする。

施設・設備

- 1 校舎内外の施設・設備、教材教具等の点検や維持整備が適切に行なわれた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
2人	10人	2人	0人	1人	3.00点	3.00点	3.08点

- 2 普通教室・特別教室及び体育館の整備が適切であった。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
1人	11人	3人	0人	0人	2.87点	2.82点	3.17点

《特記事項》

○危険なところを連絡するとすぐに直してもらえた。

●朝の教室の温度が10℃以下の日があった。寒すぎるので暖房を何とかしてほしい。

●6年生トイレの洋式化は強く要望したいが・・・。(プラス教職員も)

●理科室の消耗品の整備を図り、個人教材購入を少なくするようにしたい。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・学校施設の老朽化に伴う営繕や教材教具の整備、特別教室の整備などに課題がある。
- ・冬期間の暖房については、保護者アンケートが指摘されていたが、暖房時間の延長により改善を図ることができた。

<改善案>

- ・統合に向けて教材教具等の整理、廃棄を計画的に実施するとともに、必要な営繕要望（洋式トイレ化など）については、強く要望し実現を図っていく。

家庭、地域、関係機関との連携

- 1 PTA活動の活性化を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
1人	12人	0人	0人	2人	3.08点	3.00点	2.42点

- 2 家庭や地域、関係機関と連携・協力することができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
2人	11人	1人	0人	2人	3.15点	2.91点	3.08点

- 3 子どもの生活習慣や家庭学習習慣の改善に向けて保護者等と連携を図ることができた。

4	3	2	1	無	平成29年度	平成28年度	平成27年度
3人	8人	2人	0人	2人	3.08点	—	—

《特記事項》

○PTA作品展では、学年委員の保護者を中心に計画的に実行できた。

○一家庭一活動など、各家庭が無理せず協力できる体制が整っていてよい。

●PTAだよりの発行回数を増やすなど、保護者への働きかけを増やすよう取り組みたい。

《分析・考察・改善》

<分析・考察>

- ・「一体感を抱かれる関係づくり」を経営方針とし、保護者や地域との連携を一層図るよう努めてきたが十分な成果が得られていない、もっと連携を図っていききたいという職員が多い。

<改善案>

- ・学校の考えや取組について、説明・連絡する機会や保護者の願いや考えを聞いたりする機会を増やしていく。(保護者や地域の声を学校運営に生かすよう努める。)
- ・学習支援ボランティアも図書ボランティアのように協力していただけるよう充実を図る。
- ・地域の方にメール配信システムに参加していただき、非常時の連絡体制を強化する。